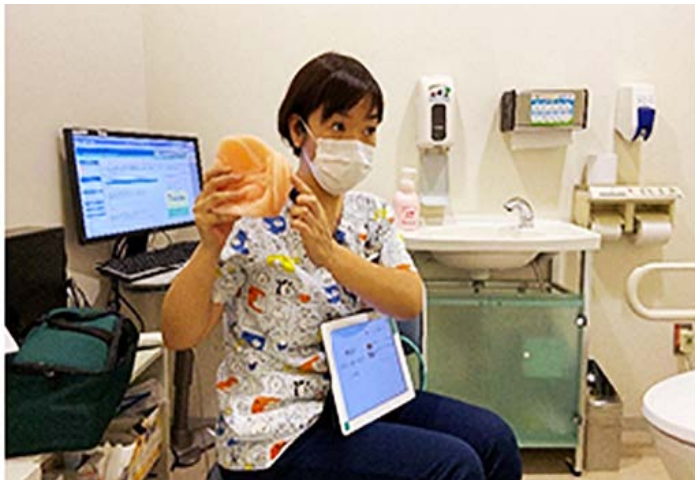


～ 排尿ケアエキスパートナースの役割と活動 ～

日本では2025年問題、国民の約3人に1人が65歳以上、約5人に1人が75歳以上となる日が目前に迫っています。排尿ケア看護外来でも排尿障害を抱え、自己導尿が開始となる75歳以上の患者が増加しています。高齢者の排尿障害は、在宅で暮らす患者・家族の難事となる要因となっており、要介護やフレイルの予防のためにも早期に介入していくことが重要です。排尿障害は、命に直接的に関わることは多くありません。しかし、排尿は生まれてから死ぬまで続けられる行為であり、羞恥心や尊厳を守らなくてはならない大事な行為です。私たちは尿意を感じ、排尿をするまでたくさんのプロセスを経て排泄に至ります。

排尿ケア看護外来では、何らかの原因で排尿障害をきたしている患者へ、自己導尿指導・骨盤底筋運動・尿路カテーテル管理・排泄ケア用品（オムツやパッド）の選択・生活習慣に関するセルフケア支援・術後の排尿自立に向けた支援などを中心に行っています。排泄のプロセスが一つでも欠けていたら快適な排尿行為はできないため、患者の身体的・社会的・精神的状況から、排尿自立に向けた看護を実践しています。



指導場面



排尿ケアチーム

また当院では、ウロギネコロジー疾患を対象とした女性骨盤底・排尿機能外来が設立され患者数も増加しています。排尿ケア看護外来では、女性骨盤底・排尿機能外来の医師と連携し、膀胱脱・子宮脱など疾患を抱える患者に対しても、骨盤底筋体操やQOLを維持するための生活指導を行っています。

排尿プロセスは羞恥心を伴う行為であることを常に考えながら、自分だったらどう配慮されたいか、患者の立場になって考え「尊厳を守り支える看護」が実現できるように、排尿ケアスペシャリストとして患者支援を続けたいと思います。

【今後の活動目標】

下部尿路症状の排尿ケア講習を受けた医師・理学療法士・排尿ケア専任看護師からなる排尿ケアチームでは、症例カンファレンス、病棟ラウンドを週1回行い、患者の排尿自立に向けた支援方法を検討しています。排尿ケアチームの活動を広めていくことで、医療者の排尿自立支援の意識を高めていきたいと考えています。

高齢化社会を迎えた今、病棟・地域だけでなく、患者を取り巻く社会と連携し、患者が自立した排尿ができるように排尿ケアを実践していくことが目標です。排尿ケア看護外来が、患者や家族の相談窓口となり、排尿障害の問題解決につながるような活動をしていきたいと考えています。